６月の活動の中で町会が呼びかけた地域猫の避妊

町会が掲示板にポスターを貼りました。それを見た住民からの要望で、不妊手術のお手伝いがスタート。住民も猫たちの捕獲に参加して、無事病院に搬送。
一見おとなしかった猫が、手術前になると興奮し、ケージに体をぶつける。
不安なんだろう、周囲のスタッフは猫が落ち着くのを待った。
一歳半のメス猫、無事不妊手術を終え、住民の元に戻る。一日間たんすの隙間に体を隠し、餌に対しても無関心。住民は避妊しなければ良かったのかな？と心配している。翌朝そんな心配をよそに、そのメス猫は餌箱をあっという間にからっぽにした。心配が愛おしさに変わり、「飼い猫として世話をします」と言う住民の声に「最後までお願いします」。

人に慣れて大人しくキャリーに収まった猫を搬送。病院に着くと、爪から真っ赤な血が…。怖かったんだろう。手術前、体を小さくして構えている。
獣医が剃毛をすると、既に避妊手術が終わっていた。麻酔が解けるまでぐっすり眠っていて、住民の下に戻したら、足元に甘えていった。それを見た住民が「家の中で面倒見よう」新しいケージの中で飼い猫となりました。

上の原公園の近くで見かけていた猫、首輪もなく飼い主がいない猫と判断し捕獲。
捕獲機の中で大人しく休んでおり、獣医が剃毛をすると、またも既に避妊手術は終わっていた。度胸がついている猫、最後まで大人しく収まり、公園の近くに戻すと、後ろを振り返りながら草むらに走っていった。
翌日公園に餌ちょうだいとお願いポーズで現れた。何らかの理由で不妊手術が終わっている猫が、飼い主のいない猫として甘えたりおねだりしたり威嚇したりして、新たな飼い主に引き取られる猫。新しい飼い主が見つからずにホームレスに戻る猫。
共に元々は飼い猫。
飼い主さんに再度お願いしたい。最後まで家族として一緒に生活をしてください。

猫を通して考えさせられる地域猫活動であった。

管理人　あすなろより